

会 議 要 録

会 議 名		令和6年度 第1回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和6年6月19日（水）午後2時00分～午後3時30分
場 所		小平市役所5階 505会議室
出席者等	委 員	16名（欠席者1名）
	事務局	こども家庭部長、教育指導担当部長、子育て支援課長、地域学習支援課長、生活支援課長、子育て支援課こども・若者支援担当係長
傍 聴 人		0名
会議内容	1 委嘱状交付 2 自己紹介 3 副会長の選任 4 開 会 5 議 事 （仮称）小平市こども計画の基本方針について 6 情報交換・意見交換 7 その他	
配付資料	・会議次第 ・席次表 ・ひらく - 未来をひらく、心をひらく - ・こだいら保護司だより ・小平市青少年委員だよりはつらつ ・若者応援ガイドブック（令和5年度版）	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

5 議 事

（仮称）小平市こども計画の基本方針について

事務局	<p>（仮称）小平市こども計画策定の基本方針について、説明する。</p> <p>資料2「（仮称）小平市こども計画の策定方針について」の1 計画策定の背景だが、令和5年4月にこども基本法が施行され、3つの大綱「少子化社会対策大綱」、「子供・若者育成支援推進大綱」、「子供の貧困に関する大綱」が「こども大綱」に一元化され、市町村はこども施策についての計画を定めるよう努めるものとされていることによる。参考資料4としてこども基本法の概要、参考資料5としてこども大綱の概要の資料を添付している。</p> <p>資料4 こども基本法では「日本国憲法及び児童の権利に関する条約の精神」にのっとり、「次世代を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわ</p>
-----	---

事務局	<p>たって幸福な生活を送ることができる社会」を目指し、それに向けて「こども施策を総合的に推進すること」を目的としている。</p> <p>基本法でいうこどもとは 18歳や20歳といった年齢で必要なサポートがとぎれないよう、心と身体の発達の過程にある人を対象としている。</p> <p>こども施策については、記載されている6つの基本理念をもとに推進することとしている。</p> <p>こども大綱について、資料5のとおり説明した。</p> <p>小平市ではこれまで「小平市子ども・若者計画」に基づいて、こども・若者施策を推進してきたが、こども基本法が策定され、こども施策全体を一体的に、市民に一層わかりやすいものとするため、小平市子ども・若者計画を前倒しで見直し、(仮称)小平市こども計画を策定することとした。</p> <p>2 計画の位置づけでは、こども基本法を策定根拠とし、市のこども施策を推進する総合的な計画として、子ども・若者育成支援推進法に規定する市町村子ども・若者計画、子どもの貧困対策の推進に関する法律に規定する市町村計画を包含する。</p> <p>また、計画の策定にあたっては、小平市第四次長期総合計画や、関連する個別計画等と整合性を図っていく。</p> <p>なお、資料3に記載のこども基本法第10条には、市町村は、国の3つの大綱と都道府県こども計画を勘案して市町村こども計画を作成するよう努力義務を課しているが、東京都の対応としては、こども未来アクション2024として、独自に推進しており、資料6のとおりであるが、東京都は既存の推進体制である、東京都の独自の少子化対策と、こども未来アクションにより、「こども大綱の政策目的と軸を一にして子供施策・少子化対策を推進していく」としている。</p> <p>3 計画の対象期間は、令和8年度から令和16年度までの9年間とする。現計画の対象期間10年を踏襲しつつ、子ども・子育て支援事業計画の策定期間に一体とできるよう9年とするものである。</p> <p>4 計画の策定体制について、さまざまな立場からご意見を伺うとしており、(1)小平市青少年問題協議会において、学識経験者や公募市民へ計画策定の各段階において、意見を聴取する。(2)市民、こどもからも広く意見を収集するよう努める。具体的にはこどもに関する意識・実態調査を行うとともに、ワークショップ等の機会を活用する。</p> <p>また、計画の素案の段階において、市民意見公募手続きを行う。</p>
-----	--

事務局	<p>(3) 庁内連携体制については、2つの会議体での体制を組む。</p> <p>①庁内検討委員会では、庁内関係課で構成する小平市子ども・若者計画庁内検討委員会を改め、(仮称)小平市こども計画庁内検討委員会に変更し、計画案を調整する。②では、(仮称)小平市こども計画庁内検討委員会に部会を置き、関連課職員で編成する。こちらでは今年度中に実施するこども・若者に関する実態調査の内容検討や、こども等からの意見聴取等についての検討を予定している。</p> <p>5 計画の策定上の留意事項であるが、(1)市議会への報告として、計画策定の進捗状況について、必要に応じて適宜、報告する。(2)情報の公開については、小平市青少年問題協議会を公開とし、会議録及び会議資料等については、終了後速やかに市ホームページ等により公表する。</p> <p>6 計画策定スケジュールの概要について、令和6年度には青少年問題協議会、庁内検討委員会、部会をそれぞれ4回ずつ開催し、こどもに関する意識・実態調査の報告を3月までに行う。令和7年度には青少年問題協議会、庁内検討委員会、部会をそれぞれ5回ずつ開催し、9月にはこども・若者等からの意見聴取、11月にはパブリックコメントを実施し、計画に反映したうえ、3月までに策定する。</p>
会長	意識・実態調査について、対象はどのように予定しているか。また、庁内検討委員会の体制は。
事務局	意識・実態調査の対象は小学5年生、中学2年生で、Web端末を通して行う予定である。そのほか、高校生から29歳までは、郵送で依頼し、QRコードを読み取ってアンケートフォームで回答してもらう予定である。また、庁内検討委員会の運営については、関係する課長が集まって検討する場としている。
委員	意識・実態調査の対象は、小学5年生、中学2年生全員なのか。また色々なこどもがいると思うが調査範囲は。
事務局	市内公立の全小学5年生、中学2年生を予定しており、特別支援級にも調査を予定している。声を上げにくい子どもたちについても国の大綱では声を聴くようにと示されているので、別途機会を設けて意見を聴いていきたいと思っている。
委員	声を聴きにくいこどもというのは、具体的には。
事務局	学校に行きにくいこどもや、自分から声を発しにくいこどもなどには信頼関係のある関係者の方をお願いをして聴いていく予定である。
委員	新しい計画は、壮大な計画であると受け止めている。現行の計画との大きな違いは。

事務局	今の子ども・若者計画は対象を主に30歳未満ととらえているが、(仮称)小平市子ども計画では40代あたりまで含める。また、子ども・若者計画では12歳未満を対象としていないので、こども全体を網羅する形になる。こどもの年齢については、基本法の発達段階にある、というところを加味している。
委員	こども大綱では、こどもの意見が尊重されると記載があるが、必ず保護者が絡んでいる。今後は家庭、保護者の立場からも意見を聴き、合意形成など、意見をすり合わせる場があってもよいのでは。
事務局	実態調査はこどもを対象としているが、そのほかにアンケートを予定しているので、そこでご意見を聴けたらと思っている。
委員	こどもや若者から意見を聴く方法があると思うが、保護者にも聴く場があればいいのではと思っている。
事務局	これから様々な立場の方から意見を聴いていくことを予定している。
委員	生活実態調査をするということか。 また、高校生以上となると回答率が下がるのでは。そうすると実態がつかみにくくなる。一部の学校にお願いするなどすると回答が偏ると感じる。他市の事例を見ると、多様化してきていて、マイノリティの方からの回答が課題になっている。コロナ禍を経て、働き方、ニーズが大きく変わったということを他市の事例を見て感じている。 変化が激しいと思うので、できるだけ幅広い意見を集めて、アンケート以外に直接話を聴けたらいいと思う。
事務局	質問項目が多岐にわたるため実態調査ほど詳細にはならないが、子ども・若者計画策定時に行ったアンケートをベースに考えている。また、アンケート回答については催促を行い、回答率を上げるよう努める。

6 情報交換・意見交換

委員	<p>小平児童相談所の状況だが、多摩地域の9市を管轄しており、令和5年度は相談が3,000件を超えており、そのうち2,000件以上が虐待相談である。うち約6割が心理的虐待で、文字通り心に傷を受けるような言葉をかけられる、どなられるなどもあるが、半数以上が夫婦喧嘩の目撃などの面前DVで、警察からの通告が多い。</p> <p>虐待の全体数としては、数年前までは相談件数が毎年前年比で1.2倍ずつ増えていたが、ここ約3年は高止まりしている。そのうち一時保護のような重篤なケースは数パーセントで、さらに施設入所に至るのは1、2パーセントとごくわずかである。通告を受けても地域で暮らしていく方が多いのが現状である。引き続き地域の皆様のご協力をお願いしたい。</p>
委員	<p>小平警察署において、令和5年度は、前年と比較して少年犯罪が増えている。コロナ禍が明けて街に出てきている影響もあるが、ネットに絡むものが増えてきている。SNSを使い、性的画像のやり取りからの脅しや、薬局で簡単に市販薬を買って、ネットで簡単に方法を検索できるオーバードーズ(薬の多量摂取)や、東横キッズなどは小平でも扱いがある。また、インターネットがあることで簡単に闇バイトに手を染めてしまったり、被害者になってしまったりしている事例がある。</p>

	<p>ほか小平市では自転車盗難が大幅に増えている。約7割が無施錠で、自宅敷地内からも盗難されているので、短時間でも鍵をかけてもらいたい。</p>
委員	<p>不登校でも学校に登校することがすべてではなく、教育委員会と連携し、将来的な自立を目的に支援している。中にはなぜ学校に来れないのかな、と思う子も非常に多い。いじめとか直接的な問題がなく、家庭環境が大きく影響しているのではと感ずることがある。昔のように貧困家庭が多いのではなく、こどもと家庭がしっかり向き合えていない、話ができていないのではと思われることもある。</p> <p>一例としてクラス替えしてクラスが気に入らない、嫌だとこどもが家で話すと、保護者が学校に電話してきて、何とかならないかと話をされる。クラス分けに課題があれば考えるが、特段問題にあるわけではないこともあり、もっと家庭でしっかり話せばそんなことにならないのではと思う。こどもが辛い思いをした後の守り方については、色々な方法があり、嫌なことを解決するだけでなく、気持ちを受け止めるという方法もあるのではないかと感ずることがある。</p> <p>こどもの学びは、教えるから主体的に学ぶに変わってきている。先日の特別活動の日では、大人顔負けの立派な意見を出していた。こどもたちが成長してきているので、こども計画にどんどんこどもの意見を反映するとよい。</p> <p>一例として先日生徒数名で新しい部活を作ってほしいと校長室にきた。目的など、どうしたらできるか考えておいでと言ったら、立派な企画書を作ってきて、一年間かけて教員などと検討して創部に至った。こどもたちには論理的にやりたいことを実現させていく力があると感じた。</p>
委員	<p>学校には、定期考査について時間を延ばしてほしいなど、今までにない要望が寄せられている。多様な子をどのように学校の中で接していくか課題。児相との連携も増えており、継続しているケースもある。自転車通学のこども全員にヘルメットを被ってきてもらいたい、購入が3割、被ってくる子が1割という状況である。ヘルメットを購入してもらい、どのように生命を守るかということに取り組んでいる。</p> <p>そのほか、悩みごとが多いこどもについて、オンラインを使った授業で卒業認定をする方針を文部科学省が打ち出し、東京都から通知が来ていて、模索中である。そのほかスクールカウンセラーとは別に介助員を配置して、生徒の様々な悩みに対応している。</p>
委員	<p>児童養護施設で毎日こどもたちと関わってきている中で、一番基本的なところは、乳幼児期からの安定した愛着、愛情の形成なのではないかと思っている。また、施設に来るまでのなんらかの大人からの不適切な関わり、トラウマのケアを柱と考えている。</p> <p>施設にいる子は顕著だが、これはすべてのこどもに関わることでは。施設入所に至らない子のほうが圧倒的に多い中で、小さいうちから無条件に大事にされてきたという経験が欠けていると、成長過程で人に頼る気持ちにならず、犯罪に走ったり、自傷に走ってしまうのでは。</p> <p>施設入所しているこどもは、時間がかかるが確実に変わってくる。春に卒園したこどもたちを見て実感している。</p> <p>今回の計画を具体的にどうやっていくのか、立派なことがたくさん書いてあるが、実際にやっていくことは非常に難しい。まずはこどもの実態を私たち大人がどうつかむのかが大事で、色々な場で工夫していくことが必要では。</p>
委員	<p>民生委員の日々の活動の中でコロナ禍の4年間がとても大きいと感じている。高齢者問題も含めて、会って話ができなかったこと、民生委員同士の共有もできなくなったと感じている。こどもたちの顔を直接見る機会がとても減った。学校訪問では以前は直接会えたのに、今はテレビ越しである。どん</p>

	<p>な反応なのかがわからないのが寂しい。相談が入ったときも、顔がわからないので活動しにくくなった。今年になって青少対のイベントが大幅再開されて、参加数が多いのを見て子どもたちがとても待っていてくれたのか、と感じる。民生委員も改選により地域行事に参加が必要なのかとわからなくなってしまっている人もいるが、これからも直接子どもたちと接していきたい。</p>
委員	<p>保護司の活動の中で、不登校から始まり、親子との会話がなく、部屋に閉じこもり、インターネットでつながり、闇バイトを簡単にやめられなくなってしまったという少年を扱っている。ある日突然不登校になったわけではなく、親友に無視されてから徐々に学校に行きにくくなったという話を聞いた。家族とも話がないので、犯罪に染まっても相談できず、深入りしてしまったという状況だった。家庭の中で少年の居場所をしっかりと確保することが大事。こどもの話をよく聴くことが大事。それができるようになると改善の方向に進んでいると聞いた。</p> <p>家庭に原因があるとは言い切れないが、家庭の環境がかなり影響していると思われる。別の少年で、夫婦喧嘩が多くて家に寄り付かなくなり、外で悪い友達とつるむなどを聞いたこともある。家庭での会話が大事。</p>
委員	<p>小5・6年生、中高生向けの青少年委員リーダー養成講座について、毎回定員を超える応募者がある。学校を越えた友達ができ、子どもたちの新たな居場所になっていると感じている。コロナ前からの実施方法からブランクがあり、青少年委員の人の入れ替わりもあり、今年は仕切り直しの年であると感じている。</p> <p>ハードルはいくつもがあるが、参加している子どもたちの笑顔を見ると、委員皆でがんばっているところである。</p>
委員	<p>先ほどの他の委員の話を聞いて、子どもたちの自主的な力、居場所を変えていく力があるんだなと思い、うれしく思った。この度の大綱の資料も具体的にどのようにしていくのか、アンケートだけでどれだけ意見を聴いていけるのかと感じた。子どもたちが具体的に参加して、おとながやるのとは違う場があれば、大人の想像を超えた意見が出てくるのでは。</p> <p>先日電車の中で若い人と話をする機会があった。不登校から始まり何度も挫折を味わったつらい経験を聞いた。明るく素直な人にしか見えなかったが、心の中にはいろいろ持っていると感じた。みんないつそういう状況になるかわからないので、いつでも伴走してくれるようなシステムがあるといいなと感じた。どんなシステムがいいのか、というのは、当事者からの提案があるかもしれないので、意見を直接聴ける場があるといいなと思った。</p>
委員	<p>部活動外部指導員として、水泳を好きになってもらいたい、部活動という経験で人生の糧になるといいなと思って活動している。成果としては卒業生が夏に来てくれて、手伝いに来てくれる。健やかに成長する手伝いができたのではという自負がある。</p> <p>課題としては、先日プールが広くて遠いので、大きな声で指導した。また、ふざけている生徒に、板を使って、話聞いて、と促したら、親御さんから苦情が来た。叩かれた、みんなの前で言われたということでクレームを受けてしまった。こども基本法に記載のある個人として尊重されることと、注意することのどちらが正しいのか悩んでしまうことがある。こどもを幸せにという法律はとても素晴らしいが、大人が歩んでできた人生を一部否定して進んでいくのが課題だと思った。こどもにとってなにが幸せかというのがぶれてはいけないと思った。</p>
委員	<p>こども2人を育てながら、小学校で学習補助員をしている。こども基本法の理念6つのことは、本当にその通りだと思うと同時に、自分がこどもにその</p>

	<p>通りできているのか自信がないというのが率直な意見である。</p> <p>仕事を通じて家庭が大事だと思っているが、家に帰ると自分がこどもに対してきちんと実践できているのかと、考えてしまう。最近こどもの担任の先生と話した時に、一緒に育てていこうと言ってくれた一言がすごく大きかった。</p> <p>自分も仕事しているときはこどもに寄り添える存在でありたいし、家庭に帰って母親としては抱え込まずに、色々な人に助けてもらいながら、また、こどもにその姿を見せながら、子育てを頑張っていきたい。</p>
委員	<p>周りのこどもたちの様子について、学校に通うのは難しいが、課外活動や民間での活動には参加できるという子もいる。声を上げにくいこどもに意見を聴くには、幅広くやるのは難しいと思うが、色々と当たるというのも良いのでは。大学に通っている中で、周囲にキャリアに不安を抱いている子や、体調を実際に崩す子もいて、10代よりも20代の先を見据えている世代に、意見を言いやすいSNSを使って声を吸い上げてほしい。こどもの幸せのために、質問など現状把握から始めてほしい。</p>
委員	<p>小学校の放課後クラブで働いている。サポーターの方と情報共有しながら問題がある子も支えていきたい。中学校になると勉強についていけなくなるなど、不登校の子が増えているように感じる。授業は受けたくないけど部活には行きたい、というこどもが不登校にならないようにサポートしていきたい。</p>
委員	<p>こども向けにWebでアンケートを実施するというのを聞いて、Webでつながったのなら、今は悩みが無くても、今後悩みができるのかもしれないので、今後そういう時に相談先につながれるようなシステムができるといい感じた。また、不登校になったこども本人も親御さんも不安なのでは。親同士のつながりの中で、例えば不登校だったが10年後こうなりました、など先の見通しが持てるような話を聴く機会があるといい。</p>
委員	<p>小学校区19校で青少対活動をしており、おまつり、防災活動、清掃活動などを実施している。おまつりは低学年の子は、最初は参加するだけで満足するが、大きくなってくると主体的にやりたくなる。異年齢のこどもの中で、自然に高学年の子の姿を見て学んでいく。学校もあると思うが、地域のお父さんお母さんがいる中で自己肯定感を育て、ほめる、やってはいけないことを教えていくことをこれからもやっていきたい。こども計画の基本目標の「こども自身の力を伸ばし、生きる力を育てる」というところに力になれるのでは。</p>
会長	<p>小平市の特別活動の日ができたことにとても期待している。1つには人間関係形成であり、不登校などの対策にもなってくるのでは。2つには社会参画で、自分の考えをどうみんなの中で生かしていくのか考える場になる。3つ目には、自己実現で、なりたい自分になるためにどういう力をつけていけばいいのかを考える場になる。すべての小中学校で取り組んでいくということであるので、小平市のこどもたちの成長に期待している。</p>